

# NEWS LETTER

一般社団法人島根県助産師会機関誌

No.28

## 上野繁子会長挨拶



島根県助産師会の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より当会の運営につきましては、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。この度4月に行われました書面での総会におきまして、皆様のご承認をいただき今年度より会長を拝命いたしました。もとより微力ではありますが理事の皆様や各委員の方々、会員の皆様方のお力をお借りし、尽力してまいりたい所存です。

前会長の三島みどり先生におかれましては、2019年4月から2023年4月総会までの4年間、新型コロナウイルス感染症の真ただ中を会長として私たちを導いてくださいました。HP立ち上げからの管理、また2022年度中国四国地区助産師研修会（担当県）を見事に開催され、県内外から多数の方々の参加をいただくことができました。ここに改めまして先生への御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、新型コロナウイルス感染症も5月8日から感染症法上の位置づけが5類感染症に移行いたしました。徐々に感染前の状況が訪れることを期待しつつ、助産師のケアの対象となる方々へはまだまだ注意深く対応する必要があると考えます。

その中で島根県助産師会の活動は施設において、ハイリスク妊産婦のケアはもとより、助産師外来・院内助産・施設内での産後ケアも積極的に実施されるようになりました。地域においても感染対策を講じながら性教育出前講座事業や電話相談（助産師ダイヤル）事業が継続して実施されております。各種教室、訪問事業、産後ケア事業等幅広く活動され女性の健康と妊産婦の心に寄り添うケアが鋭意進められております。

今年度の委員会活動として、研修委員会はオンデマンド配信による研修会を9月15日正午から10月31日正午まで開催を予定しております。今年度より日本助産師会名簿管理システム研修機能を利用して行われます。たくさんの皆様に参加され、アドバンス助産師の、また産後ケア実務者研修の研修申請に活用していただきたいと思っております。

災害対策委員会は2024年の2月の安否確認の実施が計画されています。また、島根県の災害対策マニュアルも見直しされ、本年4月に島根県助産師会HPにアップされております。会員の皆さまには、今一度有事の際、助産師としてどう活動しなくてはならないかをご確認いただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様、どうぞこの一年が皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。来年の4月開催の総会にはぜひとも皆様にお会いできることを願って・・・。

2023年5月8日

# 益田地区

## 地区活動

### 益田地区の活動について

佐々木幸江

益田地区の活動は、子育て支援センターにて月1回の乳幼児健康相談（保健師・栄養士と専門相談）、抱っここの会（0歳児をもつ親子の交流会、ベビーマッサージや育児相談）、赤ちゃんルーム（ハイハイくらいまでの児をもつママの交流、育児相談）があります。また、年5回開催のプレママミニ講座（妊娠中の方とその家族）と孫育て講座があります。どれもコロナ禍で予約制や人数制限があり利用者は減少していましたが、昨年より少しずつが増えてきました。

産後ケアはデイケア（H28、4開始）に1助産院、アウトリーチ（R1、10開始とR4、4開始）に2助産院が委託を受け実施しています。それぞれ利用後の満足度は高いのですが、まだ事業の周知に不十分さがあります。より利用を増やすことが課題だと言えます。産後2週間健診は4助産院が受け入れています。病院の外来負担軽減となることや、産後の継続ケアで助産院を利用するというところへの理解と説明不足か利用が少ないのが現状です。

バースデープロジェクト（命の授業）は、施設と地域の助産師が協力し実施しています。他に益田では独自に「産んでくれてありがとう」という保育士とのコラボの授業もあります。どちらもとても好評です。

研修は、年2回母子健康推進委員との合同研修会があり情報の共有、交流会の場となっています。助産師間での交流会はここ3年開催できていませんが、地域の助産師も増えたこともあり横のつながりを深めるためにまずは気軽に参加できる交流会を、また年1回程度の他地区との交流会、情報交換が出来るようになればいいと思います。

益田地区でもますます出生数が減少している今、女性の一生のうち特に妊娠・分娩・産後と大切な時期に安心して過ごすための環境作りに助産師の役割は大きいです。行政と施設と地域が協力し切れ目ないケアをしていること、利用者は必要なサポートを受けられることなど周知拡大し、誰もが安心・安全に育児ができることを目標に活動を続けていきます。

# 県央地区

## 地区活動

県央地区は各助産院の活動の様子を紹介させていただきます。  
大田市・江津市・邑南町

### あけみ助産院

大田市のあけみ助産院の寺戸朱美です。  
訪問ケアや育児サークルでの教室、学校での性教育、隣町の産後ケアなどを行っています。コロナ感染予防対策をしながら、出会いを大切に活動しています☺  
よろしく申し上げます。



### おばた助産院

邑南 おばた助産院 小畑道子  
産後ケアを中心に活動しています。令和4年度(2月末まで)産後ケア利用は、延べ131件で、その内アウトリーチ型が95%でした。コロナ禍において、訪問ニーズが高まりました。



### 桶谷式kei母乳育児相談室

江津市の桶谷式kei母乳育児相談室、富金原京子です。  
産後ケア事業も7年めに入りました。4月から私を含め助産師3名と保育士・栄養士が加わり、総勢5名で再スタートしました。産後ケアの更なる充実を目指して、オバちゃんパワーで頑張ります。



---

## 浜田市

---

### うい助産院

浜田市でうい助産院をしております三浦由香里です。

身体の使い方やケアを伝えられるよう、産前産後に関わらせていただいております。

他にベビーマッサージを開催したり、自身の経験から多胎妊婦、多胎育児の継続ケアをさせていただきます。



### MIWA助産院

浜田市でMIWA助産院をします落合美和子です。

産後ケア、助産師訪問、産婦検診、乳房ケア等の活動をしています。

浜田市は令和5年4月より産後ケアの利用回数を4回から7回へ、使用期限が4ヶ月から1年に延長となります。

この変更により今後はもっと産後ケアの充実が図られると思います



# 男性の家事・育児参加促進事業への参画

両親（父親）セミナー と 企業内子育て支援セミナー

バースデープロジェクト  
加瀬部洋子



島根県では、育児をしている女性の有業率が全国で最も高い一方で、子育て中の男性と女性の1日の家事・育児などに費やす時間は、女性に負担が偏っている状況にあります。また、職場では安心して妊娠・出産・子育てができて、家族がいきいきと暮らすため、男女とも柔軟な働き方が出来るよう、環境を整えることが求められています。

あらゆる分野で女性が活躍できるよう、「男性の家事・育児参加促進」を掲げ重点的に取り組んでいる島根県女性活躍推進課よりバースデープロジェクトチームに、講座の依頼を受けました。

両親（父親）セミナー ～楽しみながら子育てをするために～

「見て・聴いて・触って・心で感じる」体験型のセミナーです。妊婦体験や赤ちゃん人形を使っての育児体験や、家庭内での役割分担を見直すきっかけとして、島根県が作成した「家事手帳」・「パパの育児手帳」を活用しました。

新型コロナウイルス禍であり、初めての妊娠・出産・子育てに不安が大きかったご夫婦も、妊婦体験を通し妻へのいたわりと、これまでの暮らし方を見直し、出来ることからやってみたいと、子育てのイメージができたようです。

令和3年度は4会場（松江・雲南・出雲・浜田）、令和4年度も4会場（松江・雲南・大田・吉賀）。

各会場5組の夫婦を募集、一組の夫婦に一人の助産師が対応、感染対策のため、妊婦体験ジャケットも赤ちゃん人形も個別に使用し、濃厚な体験となりました。参加者からは、「夫婦でコミュニケーションをとる大切さを改めて気づかされた。夫婦で役割分担も考えることができた。」と、まだ見ぬ我が子の誕生に思いを馳せ、前向きに家事・育児に臨もうとする姿がありました。

企業内子育てセミナー ～働きながら子育てをするために～

島根県では企業向けに、経営者・管理職向けに「イクボスセミナー」や、育児・介護休業法（男性の育児休業）に関するセミナー等実施されています。

令和4年度、仕事と家庭の両立のための職場の風土づくりを促すため、事業所に助産師を派遣し、職場における妊婦への配慮や子育て世帯への理解促進、男性が家事や育児を主体的に行うことの大切さなどを伝えるセミナーを実施することになりました。企業で働く成人の方にお話しすることは初めての試みでもあり、セミナーの内容や展開方法など、4人のメンバーで頻回に検討を重ねました。

近年の妊娠・出産・子育ての現状をパワーポイントにまとめ、妊娠中、子育て中の従業員（母親・父親）への必要な配慮について考えてもらったり、管理職や上司の方々にも積極的に妊婦体験や赤ちゃん人形抱っこ体験を実施していただき、自己の“いのち”の大切さも感じるセミナーになりました。また、「家事手帳」を活用し、子育て世代のみならず、独身の方も、子育てが終わった方も、自身の生活を振り返り、現状をワークシートに記入してみると新たな気づきがあり、家庭での役割（家事）を見直すきっかけとなりました。

令和4年10月から「産後パパ育休」が始まりました。男性が育児休業を取得しやすくするため、企業では柔軟な働き方を探り、働きやすい職場づくりに知恵を絞っています。父親も育児のスタートから関わることで子育ての大変さや楽しさを実感し、家事・育児に積極的に携わることができるようになります。職場復帰後も、母親だけに負担がかからないよう、コミュニケーションをとって役割分担し、仕事と子育ての両立を目指してほしいです。

今年度、5企業から依頼を受け各事業所（益田、出雲、松江）に伺ってセミナーを実施しました。従業員の仕事と家庭の両立に前向きに取り組もうとする管理職の方の熱い思いを聴くことができ、託児室など環境にも配慮された企業もあり、私たちが沢山の学びがありました。働くすべての方々が、ワークライフバランスを考え、仕事にやりがいや充実感を感じながら、健康で豊かな生活ができるよう願っています。



社長さんと一緒!!



真剣そのもの!! 妊娠中☆体験中

ワークシートで  
自分の家事力をチェック



<参考資料>

- 【家事手帳】 「家のこと分担表」 など、家事の分担や家庭のルールを夫婦で考える内容
- 【パパの育児手帳】 父親に知っておいてもらいたいことにスポットを当てながら、子育てのヒント等紹介

両手帳が電子書籍になりました。島根県ホームページや「こころ」アプリ、「てごしてしまね」など、手軽に閲覧できます。





日本家族計画協会会長表彰を受賞し感謝の気持ちを込めて

佐々木真由美

令和4年度健やか親子21全国大会が、令和4年10月27日～28日、地元の松江市で開催されました。3年ぶりの現地開催となり、会場は活気に満ちていました。

今大会で私は長年母子保健事業に貢献したと日本家族計画協会会長表彰を受賞いたしました。大変光栄であるとともに三島会長はじめ助産師会役員の皆様、恩師、諸先輩、同僚、後輩への感謝の気持ちでいっぱいです。ほんとうにありがとうございました。

振り返りますと7年前に乳がんを発症し手術と抗がん剤治療を受けながら、ずっと自分の命と向き合ってきました。1年後、2年後の元気な自分の姿が想像できず不安でした。1年間の療養生活後、久しぶりに新生児訪問をした時の赤ちゃんの温もりは今でも忘れることができません。

日々の暮らしの中で、助産師は赤ちゃんをたくさん抱っこでき、赤ちゃんから元気パワーをもらっていることをあらためて感じました。助産師とは、なんと幸せな職業なのでしょう。バースデープロジェクトの活動も私の生きがいになっています。子どもたちのかわいい笑顔と保護者や先生との出逢い、そして何よりも素敵な仲間たちとの絆に支えられて今日に至っています。今、こうして元気に生かされ、このような立派な賞をいただき感慨無量です。

ところで、皆様にぜひともご紹介したい話があります。ある牧師さんの話です。

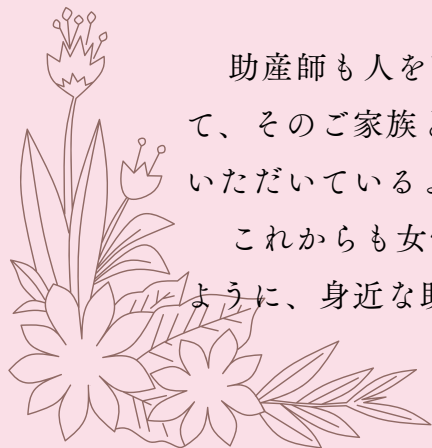
人が1年楽しもうとするなら花を育てましょう。

人が10年楽しもうとするならなら実のなる木を育てましょう。

人が100年楽しもうとするなら人を育てましょう。

助産師も人を育てる仕事です。赤ちゃんとお母さん、お父さん、そして、そのご家族との関わりを通して、私たち自身も成長し人生を楽しませていただいているように感じています。

これからも女性の一生に寄り添い、皆が地域で健康で心豊かに過ごせるように、身近な助産師として顔晴（がんば）りたいと思っています。





## 厚生労働大臣表彰受賞によせて

吉野順子

令和4年10月27日島根県助産師会から推薦していただき厚生労働大臣表彰を受賞しました。私自身、身に余る光栄なことで、三島会長をはじめ恩師、先輩方、同僚、後輩の皆様方への感謝の思いでいっぱいです。

また、「すこやか親子21」が、今年度は島根県で開催され、慣例にのっとり私が代表挨拶をすることとなりました。当日は、厚生労働省の役員様、丸山県知事様、医師会長様等々名だたる来賓者の前で、なんとか代表挨拶の大役を果たし、何だか夢の中にいるような時間を過ごしました。

私は臨床助産師5年、地域助産師としては20年以上主に訪問活動や相談事業を行ってきました。訪問は、2600件超となりました。その中でも赤ちゃんのお世話教室の立ち上げや、産後ケア事業の立ち上げにかかわってきたことが心に残っています。赤ちゃんのお世話教室は夫婦で参加体験型を企画したところ、毎回希望者が定員オーバーとなるほど好評を得て充実した事業の一つになったことに喜びを感じています。産後ケアも利用者が年々増えてきています。

助産師は、主として生後4ヶ月までに関わることが多いのですが、何度も関わっていくうち赤ちゃんの成長だけでなく、母や周りの家族も少しずつ変化していきます、まるで家族の成長物語を見せていただくような気持ちになります。それは自分にとって大きな喜びであり、“だからこの仕事はやめられない!”と感じるところでもあります。

上記の通り何ら目立った派手な仕事はしていません。恥ずかしながら臨床では、助産学科で勉強したことと目の前で起こっていることが結びつかず、瞬時の判断力を必要とされる力は及びませんでした。そんな劣等生の自分が地道にコツコツと地域の活動をしてきたことを認めていただき、名誉ある賞を受賞することができたなんて人生何が起こるかわかりません。思えば私の助産師人生、人に恵まれたなあとしみじみ思います。尊敬する先輩方、分かり合える同僚、刺激をいっぱい与えてくれる後輩たち……。

これからも感謝の心を忘れずに楽しく活動できたらいいなと思っています。



---

---

## ～編集後記～

お忙しい中、原稿作成にご協力下さいました皆さま、本当にありがとうございました。コロナの影響で、非日常の数年ではありましたが、そんな中でも、島根県東部、中部、隠岐、西部と、県内各地の助産師たちがつながり、活動されている姿、また病院と地域が連携し、妊娠中から出産・子育てまでの継続した関わり、そして母子に限らず、保育園から小中高校、ご家族、企業と、人の生涯にわたって幅広く、助産師の活動の場を広げてこられた諸先輩方の歩みに、感銘するばかりです。

最後になりましたが、会員の皆さまのより一層のご活躍と、ご多幸をお祈り申し上げます。

編集担当 菊次 弥生

